

第5章 研修のPDCA

第5章 研修のPDCA

前述の第4章のとおり、第4次産業革命と今後の職業訓練の橋渡しを行うための指導員研修のカリキュラムを開発した。

研究会にて検討・開発した基礎研修を基に、2019年11月に指導員研修「第4次産業革命と今後の職業訓練」を試行実施した。

本研修は、今後各施設において第4次産業革命に対応した訓練を推進する指導員を対象とすることにより、並行して開発した専門技術研修の受講により第4次産業革命に対応した職業訓練のコア人材の育成につなげることを目的とした。そして、研修アンケート調査を実施しその結果を研究会へ報告することで、2020年度に実施する研修内容の見直しや、新たな研修カリキュラムの開発等に活用することとした。

第1節 研修のPDCAサイクル

本調査研究では、基礎研修の2コースについて図5-1に示すPDCAサイクルに沿って実施・検証した。

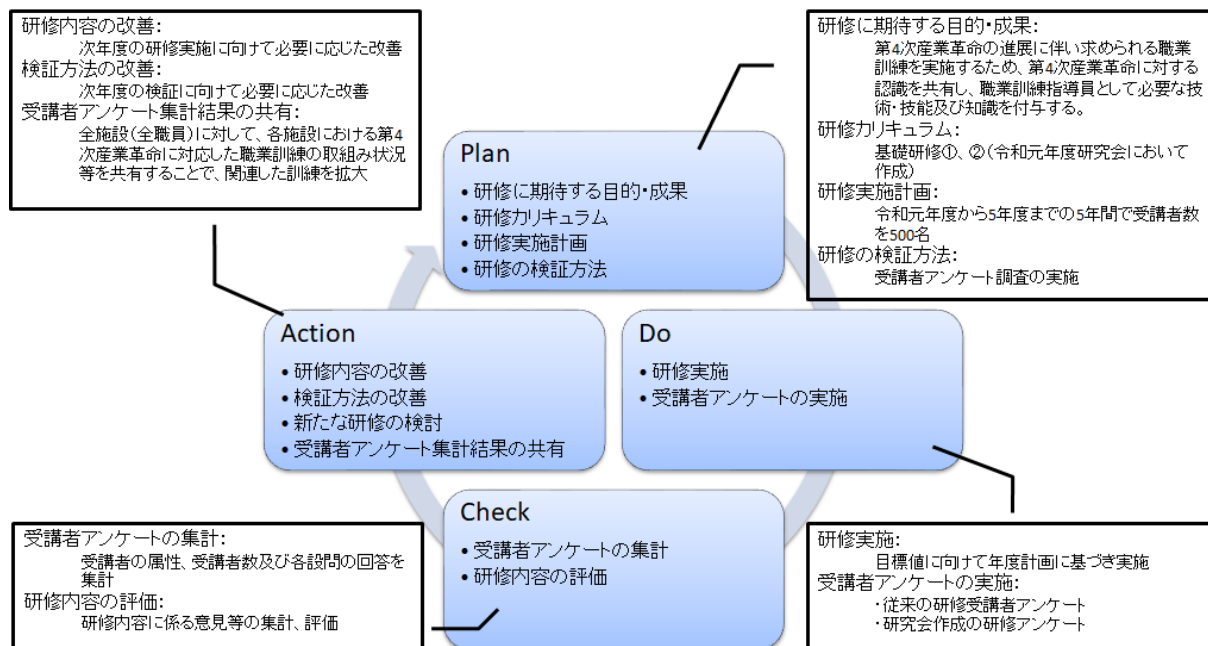


図5-1 研修のPDCAサイクル

第2節 基礎研修の実施・検証結果

本調査研究では、基礎研修の2コースについて図5-1に示すPDCAサイクルに沿って実施・検証した。

2-1 Plan

本基礎研修の計画は、本調査研究の1年目(2019年度)からカリキュラム等について検討され決定された。

2-2 Do

本基礎研修は、2019年度から2020年度末までに6回実施された。それぞれの概要と受講者数の内訳を図5-2に示す。

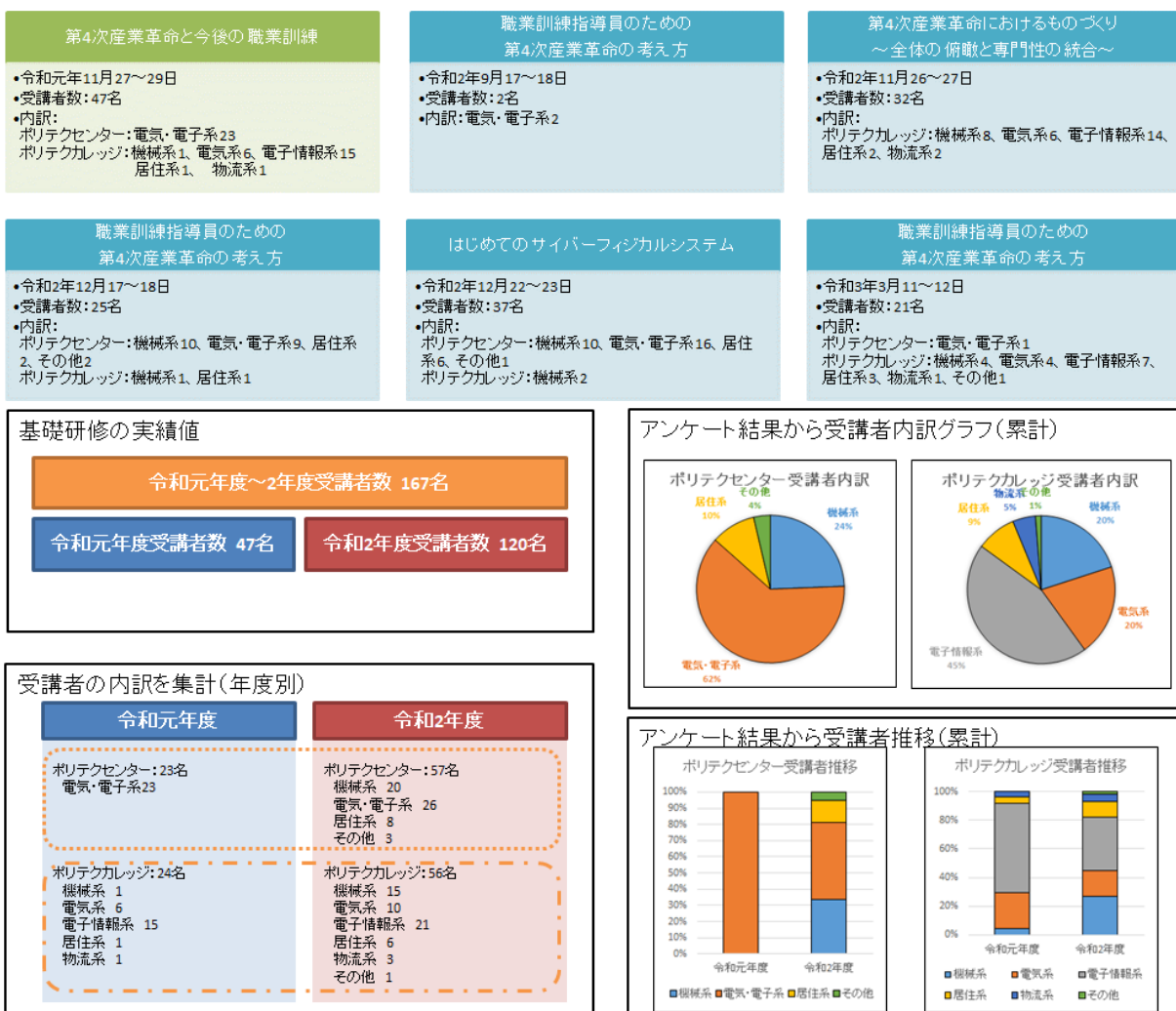
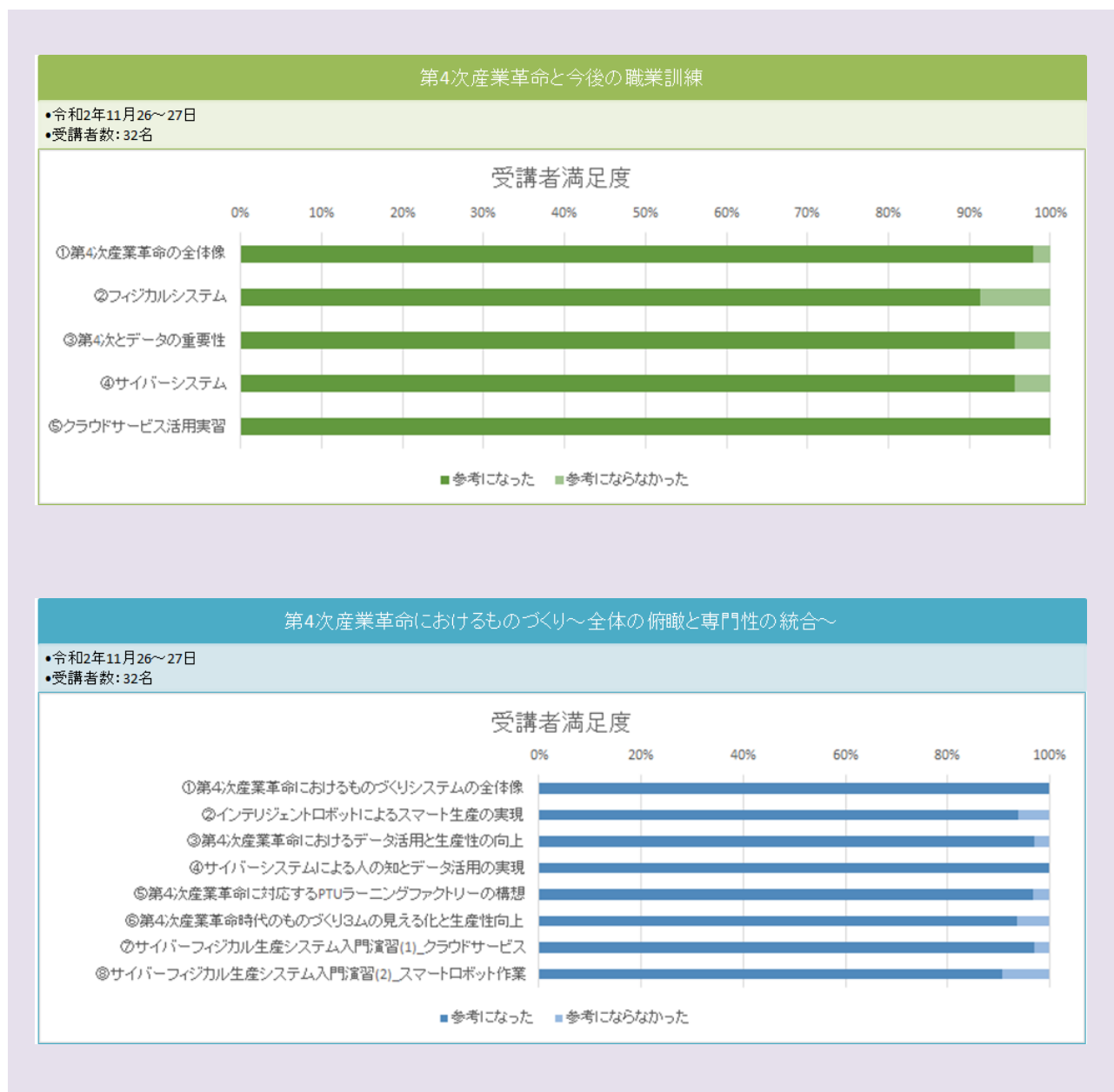


図5-2 基礎研修の実施概要

2-3 Check

(1) 受講者満足度

実施した基礎研修のうち、集合形式で実施した4コースの受講者アンケートの集計結果から研修内容それぞれの項目について受講者満足度を図5-3に示す。



(次項に続く)

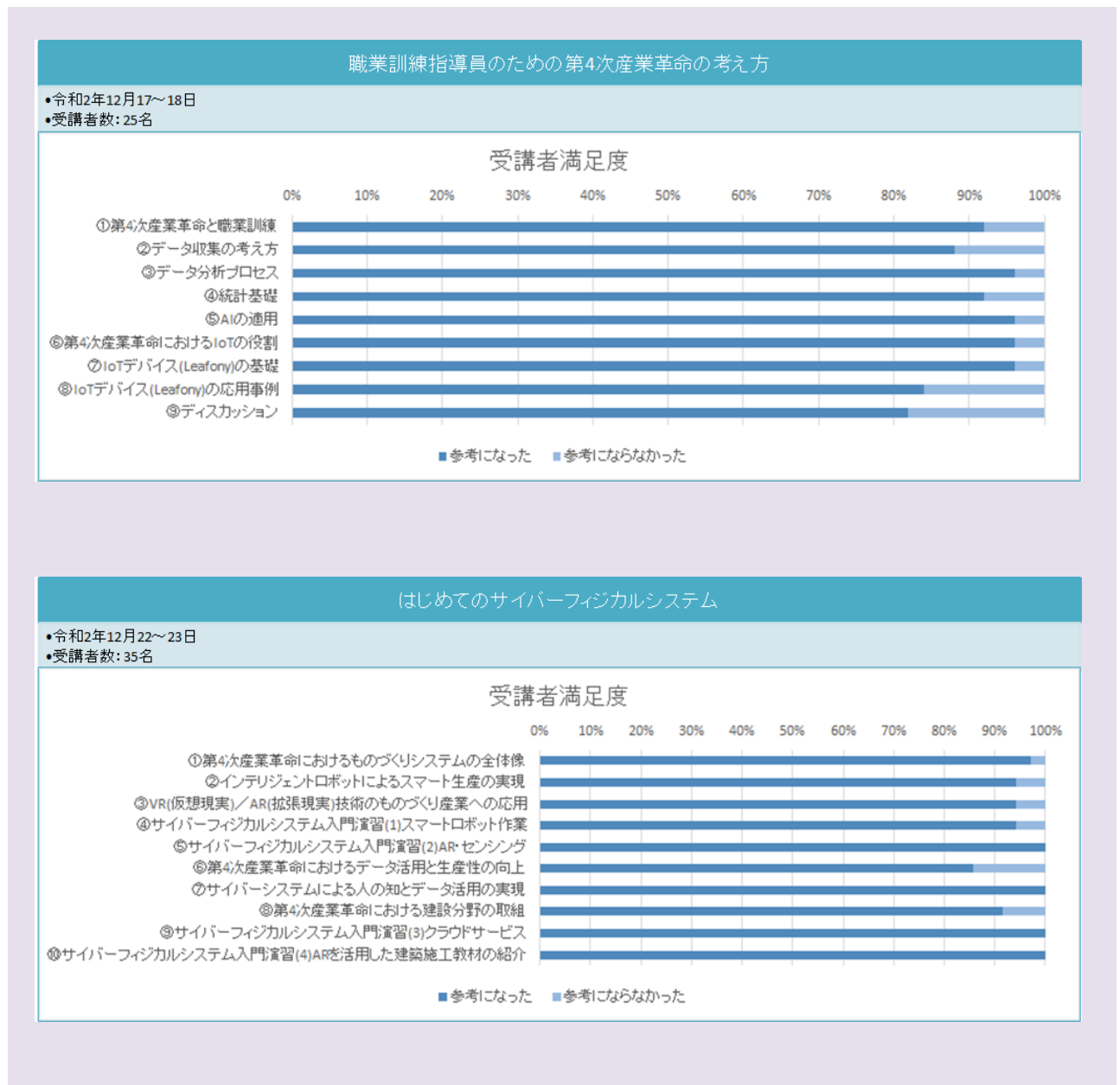


図 5 - 3 基礎研修の満足度調査結果

(2) 意見等

アンケート調査の結果から挙げられた意見の一部を以下の通り示す。

① 研修内容及びその他の意見

- ・IoT、AI等の技術要素単体の知識、技能・技術ではなく、第4次産業革命全体像からシステム全体を知ることの重要性を理解した。
- ・産業革命をベースとした経緯・俯瞰的な説明で全容を掴むことができた。
- ・システム全体を統合できる人材(指導員)が必要であることを感じた。
- ・クラウドサービスの実例と現状そして、活用するための方法を理解できた。
- ・職業訓練への展開の方向性のイメージができた。
- ・統計解析の重要性を知ることができた。
- ・指導員も統計数理科学の分野に注力する必要がある。
- ・第4次産業革命におけるデータの重要性とそれに伴う品質管理の知識の必要性を感じた。品質管理については独立した研修とするとよい。
- ・組織としての第4次産業革命に対する基本スタンスと訓練への適用分野等の統一した見解・方針等が必要。
- ・各施設の判断にゆだねるには実施も含めて難しい部分が多くあり、戦略的に進めていくことが必要。
- ・今後の職業訓練を考えると第4次産業革命の技術は必ず必要になるため研修は有意義なものであった。しかし、訓練として実施するための環境が追い付いていない部分が多々ある。

(3) 職業訓練への活用状況

第4次産業革命に対応した職業訓練についての設問では、「研修を受講した結果、想定される職業訓練における活用」について計画中の職業訓練も含めて50件の訓練内容が回答された。その内訳は、離職者訓練で15件、在職者訓練で11件、学卒者訓練で24件であった。

また、「既に取り組んでいる事例」について34件の訓練内容が回答された。その内訳は、離職者訓練で9件、在職者訓練で10件、学卒者訓練で15件であった。

2-4 Action

アンケート調査結果及び研究会委員による意見交換を踏まえて、以下の改善点等が挙げられた。

- ・コロナ禍において企業見学、グループディスカッション等実施できない状況が

あった。実施できる内容とできない内容を明確にして、できる内容を充実させる。

- ・すべての分野の指導員を対象としているが、受講者の分野に偏りがあった。研修内容に建築分野の内容を拡充することで改善した。受講者に対する広報等の改善が重要である。
- ・研修内容について、技術動向に合わせて常にブラッシュアップすることが必要であり、受講者は新たな内容を受講施設内で共有することが重要である。

2-5 次のPDCAサイクルに向けて

上述の改善点等を踏まえて、今後実施する基礎研修の計画として以下の内容が挙げられた。

- ・組織として取り組むためには、指導員だけでなく事務職員も参加可能とする。
- ・アンケート集計から要望があった技術要素について、専門技術研修を計画・実施する。
- ・すべての指導員に対してスピード感を持って実施すること及びコロナウイルス感染防止を考慮し、オンデマンドによる自己学習とライブ形式による実演を組み合わせる等、すべてをオンライン化した実施方法を計画する。